

2023年3月期 連結業績概要

専務執行役員

山西 哲司

2023年3月期 通期決算のポイント

- ICT市場が低迷する中、自動車や産機等の需要を取り込み売上高・営業利益とも過去最高を更新※

売上高

2兆 **1,808**億円

〔前期比 **14.7%**増〕

営業利益

1,688億円

〔前期比 **1.2%**増〕

ポイント

- スマートフォン、PC、タブレットの生産が期初想定を大きく下回るも、新モデル向け二次電池、センサの販売が拡大
- HDD市場の急減速により、HDDヘッド及びサスペンションの販売が減少
- xEV化、ADAS化が進み、部品搭載点数増により部品需要は堅調に推移。受動部品、センサの販売が拡大
- 再生可能エネルギー関連設備、省エネ関連設備の需要が拡大し、中型二次電池、産業機器用電源の販売が拡大
- 事業環境悪化への対応のため、第3及び第4四半期で構造改革費用を計上

※ 営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2023年3月期 連結決算概要

- 売上高及び営業利益は前期比で増収増益
- 一時費用：構造改革費用で△477億円、退職金給付関連＋120億円

(億円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	前期比	
			増減	増減率
売上高	19,021	21,808	+2,787	+14.7%
営業利益	1,668	1,688	+21	+1.2%
営業利益率	8.8%	7.7%	-1.1pt	-
税引前利益	1,725	1,672	△53	△3.1%
当期利益	1,313	1,142	△171	△13.0%
1株当たり利益 (円)	346.44	301.19	-	-
対ドル為替レート (円)	112.33	135.46	20.6%の円安	
対ユーロ為替レート (円)	130.53	140.89	7.9%の円安	

(注) 2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表から、従来の米国会計基準に替えて国際財務報告基準 (IFRS) を適用しています。
当資料に記載の前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

為替変動による影響金額

売上高 約2,922億円の増収

営業利益 約689億円の増益

為替感応度

(1円の変動による影響額)

ドル

売上高 110億円

営業利益 20億円

ユーロ

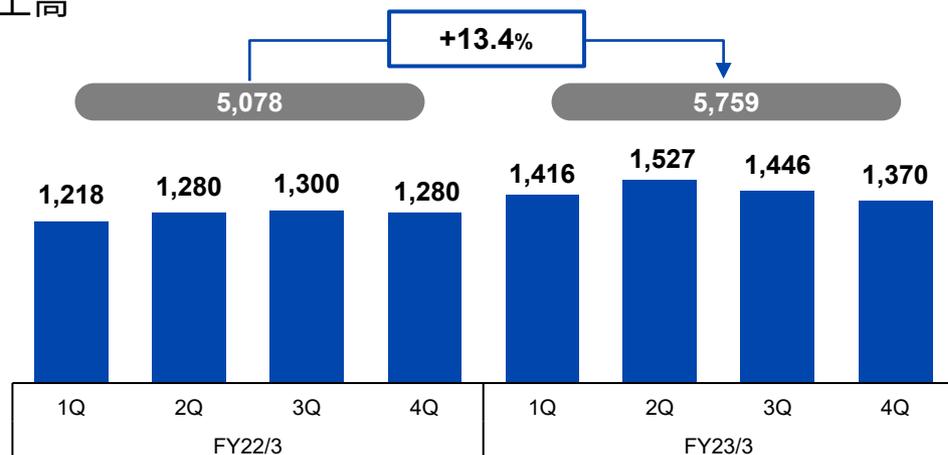
売上高 30億円

営業利益 6億円

• xEV向けを中心とした自動車市場向けが好調に推移し大幅な増収増益を達成

売上高

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



セラミック
コンデンサ

- 前期比で増収増益
- 自動車市場及び代理店向け販売が増加

アルミ・
フィルム
コンデンサ

- 前期比で増収増益
- 産業機器市場及び自動車市場向け販売が増加

インダクティブ
デバイス

- 前期比で増収増益
- 自動車市場及び産業機器市場向けの販売が増加

高周波部品

- 前期比で減収減益
- ICT市場向けの販売が減少

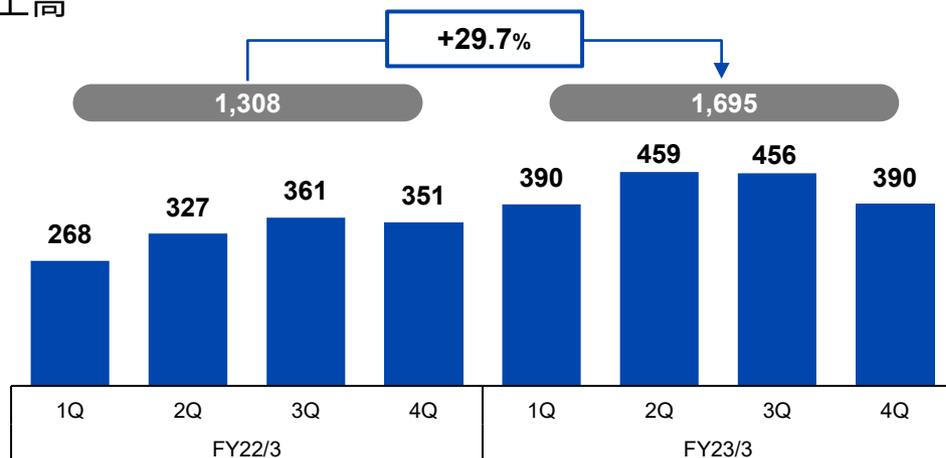
圧電材料部品・
回路保護部品

- 前期比で増収減益
- 自動車市場及び産業機器市場向けの販売が増加

- ICT市場向けを中心に販売が好調に推移し、収益性も大幅に改善し増収増益

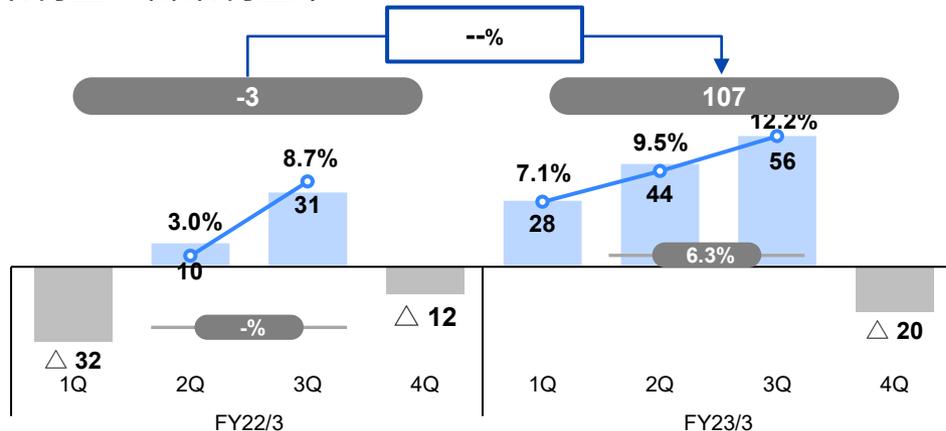
売上高

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



温度・圧力センサ

- 自動車市場用途及び家電向け売上が増加
- 構造改革費用計上もあり減益

磁気センサ

- 前期比で増収増益
- ホールセンサの自動車向け販売が拡大
- TMRセンサは、ICT市場向け販売が大幅に拡大

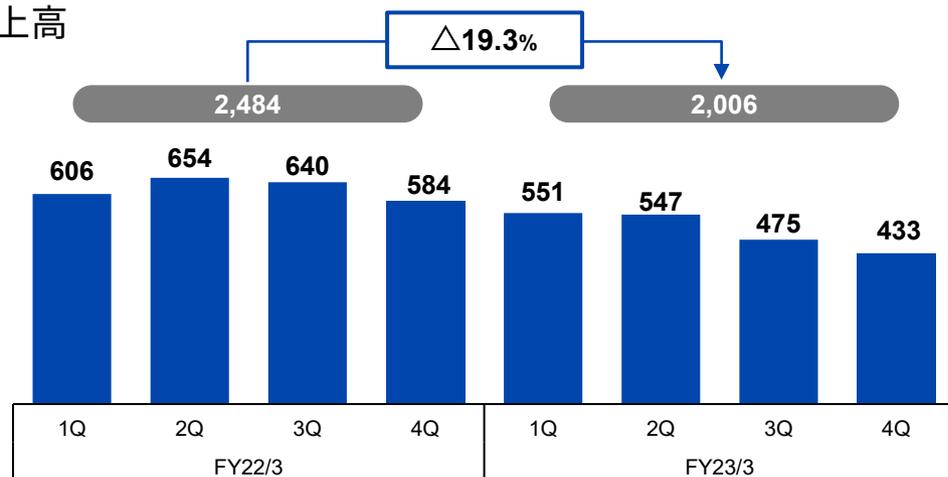
MEMSセンサ

- スマートフォン向け売上減少も、ゲーム機、ウェアラブル、自動車向け販売が拡大、収益も大きく改善

- HDD市場の急激な悪化の影響及び構造改革費用の計上により大幅な減収減益

売上高

(億円)



HDDヘッド・
HDDサスペン
ション

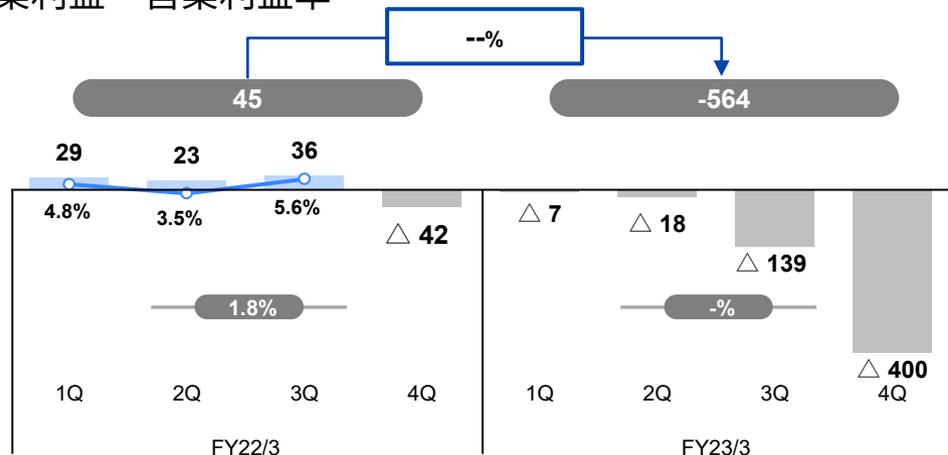
- HDD需要の急減速により前期比で大幅な減収減益

マグネット

- 自動車市場向けの販売が増加し前期比で増収
- 生産性改善の遅れにより収益改善が遅延

営業利益・営業利益率

(億円)



2023年3月期 事業別概況

エネルギー応用製品事業

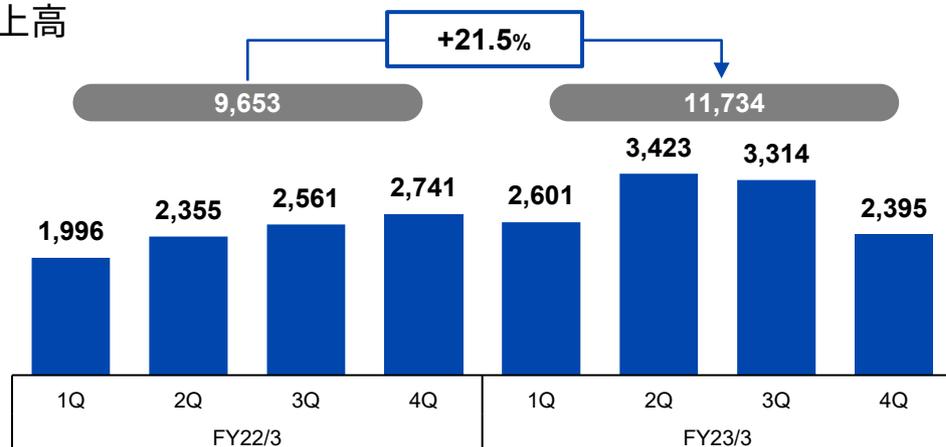
Attracting Tomorrow



- エナジーデバイスは材料費の高騰や需要環境の悪化を価格転嫁や合理化努力で吸収
- 産業機器用電源市場が堅調に推移し、セグメントとして増収増益

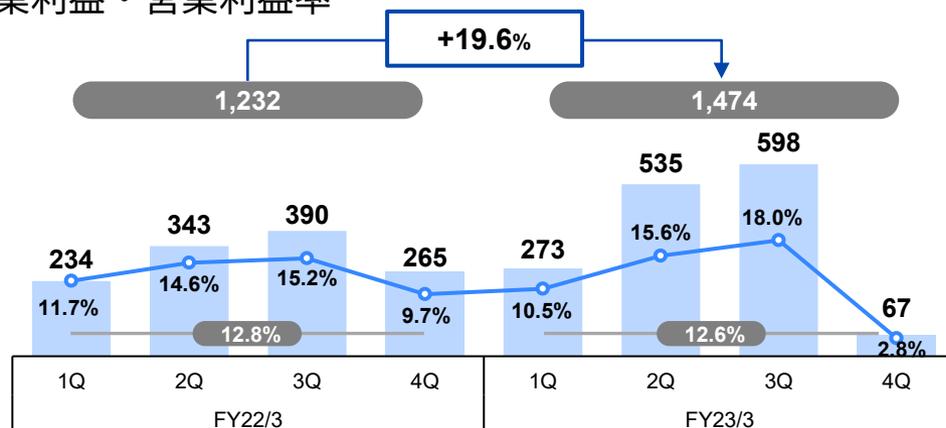
売上高

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



エネルギーデバイス (二次電池)

- 前期比で増収増益
- モバイルデバイス向けの販売数量は減少もコスト改善等で増益
- 家庭用蓄電システム向け等の中型二次電池の販売が大幅増

電源

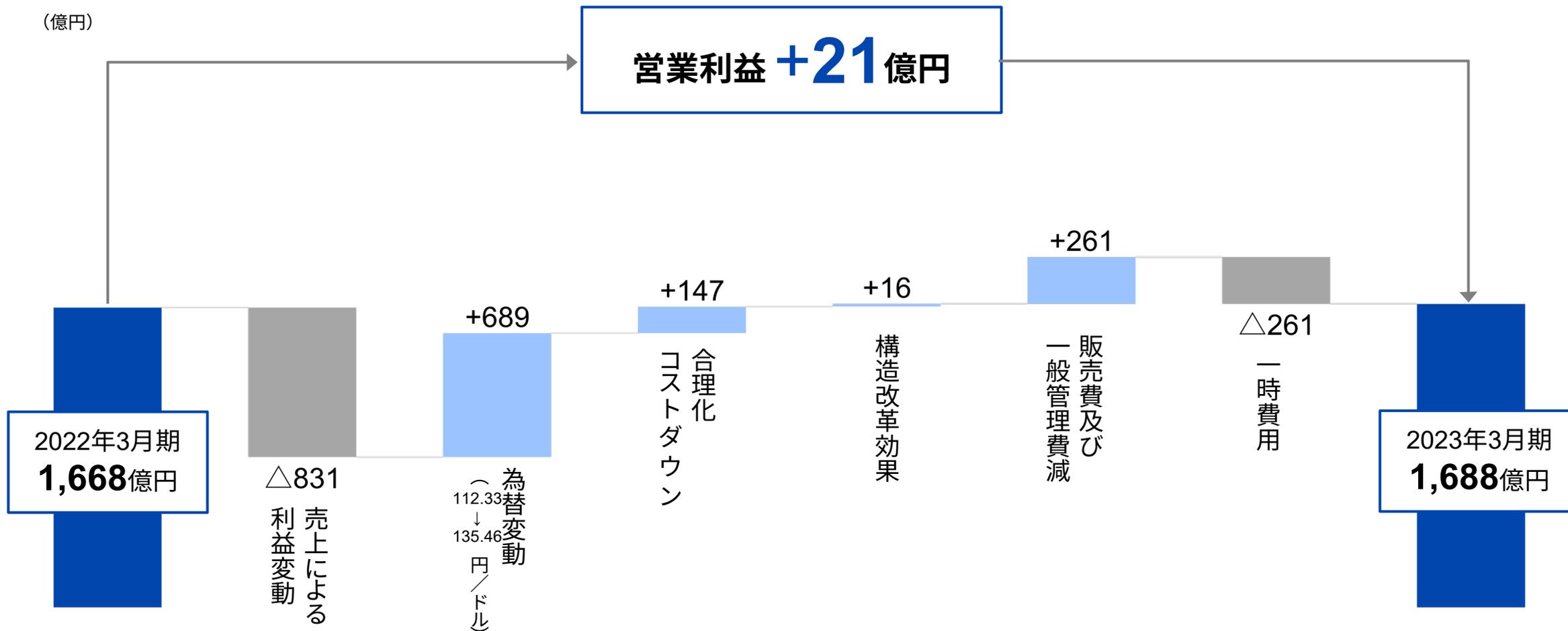
- 産業機器用電源は前期比で大幅な増収増益
- EV電源で一時費用を計上し大幅減益

2023年3月期 事業別四半期推移

		2022年3月期	2023年3月期		前年同期比(C)-(A)		3Q-4Q推移(C)-(B)	
		(億円)	4Q(A)	3Q(B)	4Q(C)	増減	増減率	増減
売上高	コンデンサ	504	615	578	+73	+14.5%	△37	△6.1%
	インダクティブデバイス	458	501	463	+5	+1.0%	△38	△7.6%
	その他受動部品	318	331	330	+12	+3.7%	△1	△0.4%
	受動部品	1,280	1,446	1,370	+90	+7.0%	△77	△5.3%
	センサ応用製品	351	456	390	+39	+11.0%	△67	△14.6%
	磁気応用製品	584	475	433	△152	△25.9%	△42	△8.8%
	エネルギー応用製品	2,741	3,314	2,395	△346	△12.6%	△919	△27.7%
	その他	126	178	131	+5	+3.8%	△47	△26.5%
	合計	5,083	5,870	4,719	△364	△7.2%	△1,151	△19.6%
営業利益	受動部品	148	260	153	+6	+4.0%	△107	△41.0%
	センサ応用製品	△12	56	△20	△8	-	△75	-
	磁気応用製品	△42	△139	△400	△358	-	△261	-
	エネルギー応用製品	265	598	67	△198	△74.6%	△531	△88.7%
	その他	△1	9	△15	△14	-	△24	-
	小計	357	783	△214	△571	-	△997	-
	調整	△103	△100	15	+118	-	+115	-
		合計	255	684	△199	△453	-	△882
	営業利益率	5.0%	11.6%	△4.2%	-9.2pt	-	-15.8pt	-
	対ドル為替レート (円)	116.14	141.75	132.40				
	対ユーロ為替レート (円)	130.35	144.26	141.95				

営業利益増減分析

- 市場環境の急激な変化に合わせ477億円の構造改革費用計上も増益確保



将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2023/4q_1.html